

若年者ものづくり競技大会 活躍誓う都内選手 下

職業能力開発施設や センター板橋校(東京工業高校などで技能を 都板橋区)。これまで習得中の若者がモノづくり職種で技能を競い合う「若年者ものづくり競技大会」。2020年大会は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止を余儀なくされた。2年ぶりの開催となる今大会は出場選手数こそ、例年の400人以上から330人の規模に縮小されるものの、感染対策に万全を期す形で開催される。

05年の第1回大会から出場する東京都立中央・城北職業能力開発

実力校、意欲引き出す

図面上にはない寸法公差も考慮しながら作業を進めるといった高度な力量も問われるという。

「寸法の安定性には手心えを感じている



工業高校でも工作機械を学ぶなど着実に技能を身に付けてきた
在川さん

する2人の意欲の高さは際立っている」と評する。久世さんは1年生の時点で2年生の課題に取り組むほど。在川さんは「旋盤の技能習得を経てフライス盤が好きなのでフライス盤は自分に合っている気がする」と自認する。2人とも将来はこうした技能を生かして日本のモノづくりを支えたいと考えている。

中村勇司さんは、「指導員になって5年あまりだが、技能習得に対する意欲が上がる。2人の指導員である



無遅刻無欠席を続けるなど勤勉さが際立つ久世さん

コロナ禍で開催される今回は競技の様子がインターネットでライブ中継される。会員制交流サイト(SNS)なども通じた積極的な情報発信も次代を担う人材のすそ野拡大につながりそうだ。競技結果は8月6日に発表される。

(編集委員・神崎明子が担当しました)